

牛久：学校周辺に見る自然

第46号 中根小

2011年10月30日発行

＜ 秋の校庭で、生きもの観察 ～ 1. 植物 ＞

秋といえば、収穫しゅうかくの秋。中根小の校庭でも、いろいろな木の実が熟じゅくししています。今回は、4年生の秋の校庭観察で見られた生きものの中から、植物たちのようすを紹介しましょう。



左から、コブシ、ハクモクレン、タイサンボク。いずれもモクレン科で、似たような果実をつける。

まずは、鳥たちが好んで食べる木の実から。上の写真は、モクレン科3種の木の実です。コブシの実は、もうほとんど落ちていました。タイサンボクはなかなか種子ができず、拾ってくれた実も、中はからっぽのようでしたね。



次は、カラスウリ。1週間前には、ちょっとぶかっこののが一つ残っていましたが、この日にはもうなくなっていました。いかにも鳥が好きそうな、鮮やかな朱色あざやかをしています。実際に観察していると、鳥につつかれて穴があいていても食べ残しが多く、あまりおいしくはないようで、他に食べ物がないときにしかたなく食べているようにも思えます。フェンスにできたカラスウリの実。食べられたのか、1週間後の観察の日にはなくなっていた。



左は、皆さん「おいしそう～ッ」と言っていたイヌマキ。赤く色づいた部分は食べられ、甘くおいしいですが、その先の緑色の種子には毒があります。鳥も知っているのか、赤い部分だけつついていることもあります。一緒に飲み込んで運んでいくこともあるようです。また、この種子は「胎生種子」といって、枝についたまま芽を出すことがあるそうです。見つけたら、教えて下さいね。

赤い部分はおいしいが、緑の種子には毒があるイヌマキ。



左から、エノキ、ヘクソカズラ、イヌツゲ。これらも、鳥が食べて種子を運ぶ。

他にも、鳥が食べて種子を運ぶ木の実がいろいろ熟していました。いくつ、見つけられましたか？
 今度は、そこにどんな鳥が食べにきているか、観察してみるとよいでしょう。



熟して果実が割れ、種子が顔をのぞかせたツバキ（左）と、下に落ちていた種子（右：左の種子には虫のあけた穴が）。

さて、左は、鳥ではなくネズミなどが運んでたくわえ、そのかくし忘れや食べ残しが芽生えて仲間を増やすツバキです。下に落ちていた種子には、虫に食べられ穴のあいたものもたくさんありましたね。どんぐりの仲間もこのタイプですが、昨年食べたスタジイの実は、今年は落ちてないようでした。



体操服につけたセンダングサ属の実(左)。拡大すると、2本のトゲにさらに細かい逆向きのトゲがたくさん(右)。

こちら動物に運んでもらう種子ですが、食べられるのではなく、毛皮などにひっついて運ばれるタイプです。お友だちの体操服にひっついてるのは、センダングサの仲間。右は一部を拡大しましたが、果実の先につきでた2本のトゲに、もっと細かい逆向きのトゲがたくさんついているのがわかるでしょうか？これでしっかりひっついて、運ばれるのですね。



風に運ばれる種子もあります。担任の先生と^{いっしょ}一緒に探して、見つけましたね。イロハモミジです。カエデの仲間は、果実の皮がうすくのびて、つばさになります。丸くふくらんでいる部分には種子があります。一つつまんで、上から落としてみましょう。くるくると回りながら、ゆっくり落ちてきます。こうして^{たいくうじかん}滞空時間をかせぎ、風によって飛ばされていくのですね。私も本物をまねて、似たような形の^{もけい}模型をつくっていますが、なかなか本物のようにうまく回ってはいけません。すばらしい自然の作品といえるでしょう。校庭には他に、クロマツの種子もありますが、松ぼっくりはまだ緑色でした。タンポポやノゲシ、セイタカアワダチソウなどの果実は、つばさではなくガクが変化した、冠毛（かんもう）と呼ばれる綿毛で運ばれます。



イロハモミジの果実。つばさで回りながら落ちる。



紅葉はまだあまり見られませんが、ドウダンツツジの葉が、だいぶ赤みを増してきました。落ちていた枝についたキノコを見せてくれたお友だちもいましたね。

ドウダンツツジの紅葉（左）と、枝についたキノコ（右）。



冬に白い花を咲かせるために、つぼみを用意しているヒイラギ（左）とシロダモ（右）。

冬に花を咲かせるために、つぼみを用意している木もありました。ヒイラギは年をとると丸い葉をつけるようになるので、見つけるのが大変でしたね。白いよい香りの花を咲かせます。先日まで咲いていたキンモクセイに近い仲間なのです。シロダモは文字通り葉のうらがまっ白。葉にはぼこぼこ、こぶのようなものがたくさんついていましたね。このお話は、また冬になったらしようと思います。



今、花を咲かせている植物も見られました。フェンスにからんだつるに、カナムグラの花が咲いていました。左が雌花、右が雄花ですが、雌花はビールの苦みのもととなるホップによく似ています。実は、同じカラハナソウ属の仲間なのです。

ビールの苦みのもと、ホップと同じカラハナソウ属のカナムグラ。雌花（左）と雄花（右）。



夏の花ですが、サルスベリもまだ咲いていましたね。漢字で「百日紅」と書きますが、花の時期がたいへん長い樹木です。名前の由来になっていますが、木肌がツルツルなのもおもしろいですね。樹皮がうすくはげてしまうのですが、冬は寒くないのでしょうか？

文字通り、百日も花がついているサルスベリ。

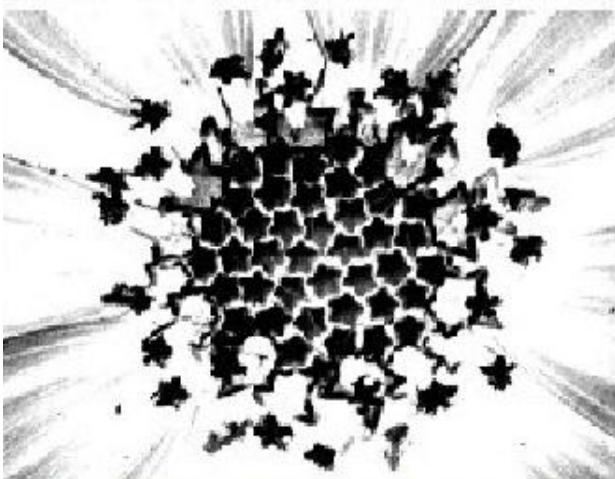


予想以上に、皆さんが探すのに苦労していた「花の中の☆マーク」。ヒントをたよりに見つけましたね。そう、コスモスの花をのぞきこむと・・・、たくさんの☆がかくれていました。「コスモス」には名前の由来となる「秩序」という意味もありますが、「宇宙」という意味もあるようで、その中にたくさんの☆が集まっているのもおもしろいと思いました。同じものでも、遠くからはなれて見たり、近づいて見たり、虫めがねで大きくして見たり、顕微鏡でもっともっと大きくして見たり、いろいろな方法で、いろいろな角度からながめてみると、また違って見えます。新しい発見もあるでしょう。世界が広がる感じがするかもしれま



コスモスの花の中につまった☆マーク。

せん。皆さんも、いろいろな発見をしてみましょう。そして、おもしろいものを見つけたら、一人じめしないで、皆にも、私にも教えて下さいね。



花の中の星マーク ☆

ビンゴカードの☆マーク(左)と、☆をとりに、いえ、みつを吸いにやってきたトラマルハナバチ(右)。



「観察ビンゴカード」は、それぞれの観察場所にあわせてもう 10 年以上つくってききましたが、いかがだったでしょう? はじめは相手が高校生で文字だけでしたが、生徒の要望から 2 年目には写真や絵を入れるようになり、さらに牛久自然観察の森で使っているのも参考に (一部引用)、よりとりくみやすいものにしました。ご意見、ご要望などありましたら、遠慮なくいっていただけるとありがたいです。それをもとに、もっとよいものをつくっていききたいと思います。【理科支援員 宮内】